

# アジアにおける同性愛者の人権<sup>1)</sup> (2)

ローラン エリック

- 0. 序 言
- 1. 人 権：アジアにおける西洋のモデルの妥当性
  - 1.1. 人権の非普遍性
  - 1.2. アジアにおける西洋の影響
- 2. アジア的なゲイのアイデンティティ
  - 2.1. アジアの多様性
  - 2.2. 同性愛エロチシズムのアジア的な伝統
  - 2.3. 多方面なアイデンティティ
- 3. 方 法 論
- 4. 各国各々の状況
  - 4.0. 序 言 …… (以上, 前号)
  - 4.1. イ ン ド      4.2. スリランカ
  - 4.3. ネパール      4.4. バングラデシュ
  - 4.5. モンゴル      4.6. 中 国
  - 4.7. 香 港      …… (以上, 本号)

## 4. 各国各々の状況 [承前]

### 4.1. イ ン ド

#### LGBTQ のグループ

アジアの国々のうち、インドは、LGBTQ のことでは、最も組織された一つである。ほとんどの州では、非異性愛者のために、サポートのグループが

存在している。ただ、次のように主なグループしか載っていない。徹底的なリストのために、「インディアン・ドスト」(Indian Dost) で参考：

[http://www.indiandost.com/gay\\_group.php](http://www.indiandost.com/gay_group.php)

「アンチャール」(Aanchal), ムンバイ市, LB の女性のためのヘルプ・ライン：  
aanchal69@hotmail.com

「バロサ」(Bharosa Trust), ラクナウ市 (ブラデーシュ州), エイズ：

bharosatrust@yahoo.co.in ; bharosatrust@usa.net

「レズビアン権利のためのキャンペーン」(Campaign for lesbian rights), デリー市：  
caleri@hotmail.com

「ゲイボンベイ」(Gay Bombay)：<http://www.gaybombay.org>

「グッド・エズ・ユー」(Good as you), バンガロール市, LBT のサポートグループ：  
goodasyoubangalore@yahoo.com ;

<http://www.geocities.com/goodasyoubangalore>

「フンラヒ」(Humrahi), デリー市, G グループとヘルプ・ライン：

<http://www.geocities.com/WestHollywood/Heights/7258>

「フンサファール」(Humsafar Trust), ムンバイ市, G やヒジュラのためのエイズのグループとヘルプ・ライン：<http://www.humsafar.org>

「ラックシャ」(Lakshya Trust), バロダ市, GT グループ：

lakshya123@rediffmail.com

「ミスルデュ」(Mithrudu), ハイダラーバード市, GBT グループ：

mithrudu@yahoo.com

「ナズ財団」(Naz Foundation), デリー市, エイズ, ヒジュラのグループ：

nazindia@bol.net.in ; <http://www.indianngos.com/n/nazfoundation/>

「オラバ」(隠さないことと活動のための組織化したレズビアン同盟)(OLAVA: Organized Lesbian Alliance for Visibility and Action), プネー市, LB グループ：

olava\_2000@yahoo.com

「プリズム」(Prism), デリー市, LBT グループ：[prism\\_delhi@yahoo.co.in](mailto:prism_delhi@yahoo.co.in)

「サーティ」(Saathi), チェンナイ市, コルカタ市, LGBT, エイズグループ:

<http://www.saathi.org>

「サブラング」(Saburang), バンガロール市, 性的少数派の権利のグループ:

[sabrang@lycos.com](mailto:sabrang@lycos.com)

「サハヤトリカ・プロジェクト」(Sahayatrika Project), LB グループ:

[sahayatrika@rediffmail.com](mailto:sahayatrika@rediffmail.com)

「サホダラン」(Sahodaran), チェンナイ市, G グループ:

[sahodara@md3.vsnl.net.in](mailto:sahodara@md3.vsnl.net.in); <http://www.sahodaran.faithweb.com>

「サキ」(Sakhi), デリー市, L センター

「サマバヴァナ会」(Samabhavana Society), ムンバイ市, エイズ, 性少数派の

グループ: <http://www.samabhavana.org>

「サンガマ」(Sangama), バンガロール市, エイズ, 性少数派のグループ:

[sangama@vsnl.net](mailto:sangama@vsnl.net); [sanagama@sangamaonline.org](mailto:sanagama@sangamaonline.org);

<http://www.sangamaonline.org>

「サンギニ」(Sangini Trust), デリー市, LBT グループとヘルプ・ライン:

[sangini97@hotmail.com](mailto:sangini97@hotmail.com); [sanginigroup@hotmail.com](mailto:sanginigroup@hotmail.com);

<http://www.sangini.org>

「サプォ」(Sappho), コルカタ市, LB 女性グループ:

[sappho1999@rediffmail.com](mailto:sappho1999@rediffmail.com)

「ストリー・サンガン」(Stree Sangam), ムンバイ市, L グループ:

<http://in.geocities.com/keyaindia/splash.htm>

「スワバヴァ」(Swabhava Trust), バンガロール市, LBT グループ:

<http://www.swabhava.org>

「スウィクリティ」(Swikriti), LBT グループ: [swikriti2003@hotmail.com](mailto:swikriti2003@hotmail.com)

「トザン」(Thozhan), ポンディシェリ市, G グループ:

[thozen\\_2000@yahoo.com](mailto:thozen_2000@yahoo.com)

その内、宗教的なグループもあり：

「ガルヴァ」(Galva: The Gay and Lesbian Vaishnava Association), ヒンズー教グループ：<http://www.galva108.org>

「性的少数派のための釈迦会」(Sidharta Gautam Trust for sexual minorities), デリー市、仏教のグループ

### 社会・文化の背景

\* ヒンズー教は、時々クリバと呼ばれている第三性の人々の存在を認めている。それは、その性行動をせず、異性愛以外の多様な文化を示している (Roy, 2000a; Pattanaik, (2001) 2004; 2002; Wilhelm, 2004)。ヒンズー教とジャイナ教(紀元前6世紀)の文書では、性的なカテゴリーは定義されている。カーマーストラ(紀元前4世紀)では、男性の方が好きな男性は、「第三性格」と呼ばれている (Sweet と Zwillig, 1996; Sweet, 2000)。カーマーストラには、道徳的な非難がなく、ただ人類のセクシュアリティの一つの側面として同性愛的な性行動が記載されている。さらに、前近代インドで、都市における男性同士の平等的な関係の存在も見られる。これらは、ある学者によって、ケツコンとして翻訳されている (Roy, 2000b)。

インドの古典文学における第三性の人々は、一般に売春や踊り、低い社会階級と結び付けられている。が、12世紀から17世紀まで、イスラム教がインドの大部分を支配していた時代では、文学における同性愛についての情報が非常に少ない (Sweet, 2000)。しかしながら、その当時の図像や石版画、詩は、しばしば明白に同性愛エロチック的であった (Khan, 2001; Wilhelm, 2004)。イスラム教徒がインドに同性愛行為を持ち込んだという噂は、今でも南インドに残っている (Kugle, 2002; Vanita, 2002)。

Vanita (2002) や特に Vanita and Kidwai (2000) は、インドの様々な伝統的文化(ベンガル, ペルシャ, ウルデゥなど)における文学(主に詩)で、男性・女性の同性愛的恋愛のいくつかの例を挙げている。彼らは、同性愛の関係や



パートナーを示すための専門用語も見つけた<sup>1)</sup>。

同性愛行為では、決定的な変化が19世紀で起きた。その当時、ヴィクトリア女王のユダヤ・キリスト教の論証によって作られた同性愛嫌悪が持ち込まれた。その時から、伝統は、諸文書の誤った解釈や削除によって、書き直されてきた (Kugle, 2002; Petievich, 2002; Sweet, 2002; Vanita, 2002)。

\* 現在でも文化的な意味があつて、インドの伝統的な“第三性”はいくつかのタイプがある。最もよく知られている例が次のようにある：

ヒジュラは、トランスベスタイトやトランスジェンダー、受け身の同性愛者などであつて、時には宗教的な犠牲として去勢されている<sup>2)</sup>。伝統的に仕事が禁止されているからしばしば乞食だったり、水商売をしたり、吉兆であるから結婚式でのエンターテナーになつたりする (Karp, 1998; Nanda, 2000)。彼らは、インドの様々な地方的、宗教的、民族的な背景から来ている。多宗教的であつたり、イスラムの伝統から来たりして、大部分は、パフチャラ・マタという女神を奉っている。男性でもなし女性でもなし、ヒジュラたち自身も、女神の創造的な力を持っているから、聖的であると信じられている (Sweet, 2000; Nanda, 2000)。多くのインド人は、ヒジュラが超自然的な力を持っていると信じて、彼らのことを恐がっている。ヒジュラの何人かが、それを利用して、お金などをもらう。ヒジュラの人口は正式に調査されていなくて、50万人から500万人までと判断されている (Bondyopadhyay, 2002; Sweet, 2000)。

イギリスの支配のもとで、ヒジュラたちは、所有地を持つ権利や養子縁組の権利も失ってしまった (Ashok Raw Kavi<sup>3)</sup>)。厳しいルールのもとで、先輩(グル)・後輩の制度で組織されている共同の寮に住んでいる (Nanda, 2000)。

ジャンカ (jankha) やゼナナ (zenana) と呼ばれているトランスベスタイトや去勢されていなくても女性らしい男性、受け身同性愛者は、歌手や踊り子

として働いている (Sweet, 2000)。

ヨグタ (jogta)、ヒンズー教上の伝統的な“寺の男性売春”は、主に西インドで生活している。幼い時に、レスカ神に奉獻されて、寺の様々な行事のためにしばしば僧侶に利用される。ヨグタは、結婚している女性のアクセサリーを付けて、常に女装している。ヒジュラと違って、女性と結婚でき、家族を持つこともできる (Yashwant Bamhne<sup>4</sup>)。

ドラヴィダ族の宗教上の、主にインドの南部にいるシャヴシャクティ (shivshakti) は、貧乏のせい幼い頃から様々な神に奉獻され、女装したり女性的な行動をとったりする。宗教的な役割を演じて、性的な目的にも利用されている。

\* 文化的に、インドの女性に対しては、女性らしさや従順さが期待されているが、男性に対しては、男性らしき態度や行動といった点では、社会的なプレッシャーがそれほどなさそうである。事実上、男性性の方が優勢と認められている。従って、反対のジェンダー・アイデンティティが取り入れられていない限り、男性同士の感情・愛情を表すのは (例えば同じベッドで寝ること)、社会的に受容されている。受け身の同性愛的な行動は、男性性不足と関連づけられていない。むしろ、男性性は、結婚や父たることを通じて肯定されている。結婚した男性だけ尊敬されている。大体の場合ではお見合い結婚であって、子孫という意味と強く関連していて、インドでは独身の人はほとんどいない (Nath と Nayar, 1997; Asthana と Oostvogels, 2001; Eastgarden)。

それと同時に、インドでは、婚姻中でも“セクシュアリティに対する否定的なイメージ” (Nath と Nayar, 1997; 584) が存在している。性行為のためにふさわしい・ふさわしくない日々があるという信仰のような、多くの性に対するタブーが、現在でも特に地方には見られる。

## 法律の状況

刑法の 377 条のもとで、同性愛的な行為は犯罪行為である：「男性や女性、動物と行われている不自然な性的行為」。男性には法律的にそうであるが、女性についての記載がないけれども、女性たちをおどして訴えるために使われている<sup>5)</sup>。377 条には、明白に同性愛が載っていない<sup>6)</sup>。しかしながら、刑法の「説明」によると、「身体にしみ込むこと」が性的行為の定義に入っている。そうすると、肛門的行為が法律上犯罪行為になり、事実上、同性愛が非難される。377 条を通じて、男性同士のフェラチオも身体にしみ込むことのない性行動も犯罪行為と判断されたことがある。377 条によって、10 年間の懲役刑まで科すことができる (AI, 2002; IGLHRC; Gay Bombay)。377 条は、イギリスの支配の影響で、インドの刑法に 1860 年 10 月に取り入れられた (Bhaskaran, 2002; Narrain, 2004)。

実際には、高等法院や破毀院では、377 条に関する訴訟事件が 30 件しかなかった。現在、警察による主な利用は、男性同性愛者をセクハラしたり恐喝したりすることと、女性をおどすことである (Samabhavana society; Ashok Raw Kavi)。証拠が出しにくいので、同性愛者たちが虚偽の起訴 (すり、盗みなど) を通じて訴えられる場合は珍しくない (Sherry, 1998; Bondyopadhyay, 2002)。最もよく起きる事件は、大人から子供への強姦である。大人同士の場合、性行為に対して同意したかどうかという基準が、一回しか認められなくて、それは結婚した異性愛者の夫婦であった (Sherry, 1998; Bhaskaran, 2002; 25)。

ゲイ・アクティヴィストや弁護士アティヤ・ボンディオパディヤイ (Aditya Bondyopadhyay) 氏が国連で発表した後、2002 年 4 月 11 日に、国連の人権委員会は、インドにおけるセクシュアル・マイノリティに対するの取り扱い方を暴露した (IGLHRC)。

1994 年 4 月に、捕虜の間で、高いエイズ感染率や普段よく行われる “同

性愛的性行為”が発見された。政府から刑務所にコンドームを配付することを拒んだ後、「ABVA」というグループは、377条が憲法違反の、違法的、無効と見なされるために、州や地方の行政に対して、デリの高等法院で、告訴した (Bhaskaran, 2002)。さらに、2001年12月に、ナズ財団からのアクティヴィストたちが、“反同性愛者法”に反して、訴訟を提起し始めた (Sanders, 2002; Narrain, 2004)。377条に反対するアクティヴィズムの目的が、同意された性行為を合法化することである (Bhaskaran, 2002)。ナズ財団の訴訟は、2004年9月に治安の維持という理由で、裁判官が拒んだ (365.gay.com; Gay Bombay)。さらに、2002年6月から、インドの政府は、同意している成人間同性的な性行為が違法にならなくなることの法的・倫理的・社会的な側面を検討してきた (AI, 2002)。

それにも拘らず、チェンナイ高等法院から、ヒジュラと“一人の男性”との結婚が認められたことがある (日付け不明) (Ashok Raw Kavi<sup>7)</sup>)。

同性愛的な性行為を行っている軍人が、軍隊から追放されたり、禁錮7年の罰を科されたりする (Caron, 1998; Sheng, 1998)。

#### 法律の適用

セクシュアル・マイノリティに対して、国にサポートされている暴虐や迫害のケースが多く発表された。いくつかの事件を通じて、LGBTQ やその権利に関する事柄が新聞などのフロント・ページに載せられた：

\* 1998年12月に、シェヴ・セナというイスラム教の過激主義のグループから指導され、レズビアンラブ・ストーリーを描写しているデーパ・メタ (Deepa Mehta) 監督の『Fire』(火)という映画に反対して、暴力的なデモが行われた。この事件がきっかけで、レズビアンに対する差別と戦うために、1999年に「キャンペーン」(Campaign)というグループが創立された。さら

に、2003年にレズビアンの話という主なテーマを取り上げたカラン・ラズダン (Karan Razdan) 監督の『Girl Friend』(ガール・フレンド) という映画に対して、イスラム教徒から同じような反応が示された。

\* サハヨッグは、1992年からブラデーシュ州でエイズ教育について活動している組織である。1999年9月に、性行為がはっきり描写された「エイズと私たち」(Aids and us) というパンフレットを出版した。2000年4月に、この会の事務局が攻撃され、会員の5人が「暴行」のために(107, 116, 151条により)、6人が「猥褻な出版」や「不品行」のために(292, 293, 505条により)逮捕された。5人が4月25日に解放されたけれど、残る6人が、弁護士の援助申請を拒否されたし、5月4日に彼らが手錠をはめられ<sup>8)</sup>、市場で公開された (Gay News; Rajalakshmi, 2001)。

\* 2001年7月にラクナウ市で、警察が同性愛者たちのもつエイズに対して活動をしていた二つのNGO(バロサヤナズ財団)のオフィスを攻撃して、4人のメンバーを逮捕した。この町の様々なクルージング・スポットも攻撃して、7人を逮捕した。4人のメンバーが、377条によって、「不自然性行為」を行うと、292条によって、猥褻な書物売ると告発されていた。さらに、セーフ・セックスの資料がポルノグラフィーであると判断されたので、2, 3条「女性行為の猥褻な表現の仕方」(1986年)も、著作権についての60条(1957年)も援用された。彼らは何度もぶたれたし、45日間刑務所に拘留されていた。その内、イスラム教徒のアリフ・ジャファール (Arif Jafar) 氏は、国の敵として示された。地方的・全国的・国際的なレベルでも、この4人の逮捕が広い抗議を生み出したのに、国立の「エイズ監視会」(National Aids Control Organization)は、自分が決めたエイズに対するポリシーにも拘らず、彼らを守ろうとしなかった。現場に来たアクティヴィストたちや弁護士が、ラクナウの警察におどされた (Bondyopadhyay, 2002; Gay News; AI, 2001<sup>9)</sup>; IGLHRC)。

\* エイズやセクシュアル・マイノリティに関する活動をしている他のNGOも、警察からであれ一般の市民からであれ、様々な攻撃の対象になった。

2002年に国連の人権委員会にてボンディオパディヤイ氏が言っているように「小さなラクナウ事件は毎日のように行われている」<sup>10)</sup>。

さらに、ハイダラーバード市などで、広く警察がクルージング・スポットを攻撃し始めて、ゲイを逮捕したり、強奪したり、無理矢理に性行為を強いたりして、時には輪姦まで行われた。

2001年に、一般的に病院が同性愛を病気として見ながら電気ショック療法を受けさせているために、ナズ財団は、国立人権委員会に告発した。しかし、委員会から却下された (Bondyopadhyay, 2002)。

22歳のヒジュラのチャンディニさんが、2002年12月1日に、色々な節のある状況で亡くなった。彼女の主人によると、彼が妻のヒジュラのアイデンティティを発見して、彼の両親にそれを打ち明けると脅したとき、チャンディニさんは、自殺してしまった。調査委員会<sup>11)</sup>によると、結婚の時、主人がチャンディニさんのヒジュラのアイデンティティを既に知っていたという証拠が存在している。結婚一週間後、去勢のために彼女を病院に連れていったらしい。結婚数カ月後、旦那さんの暴力などから、前のヒジュラのコミュニティへ逃げようとしていた。ヒジュラのコミュニティを認められないという理由で、その地方の警察が、チャンディニさんの指導者の訴訟を取り扱うのを拒んだ。真面目な調査をせずに、警察は、チャンディニさんが自殺したという結論を出した。2001年12月から、サンガマや IGLHRC は、再び警察からの調査を頼むために、キャンペーンを始めた (IGLHRC)。

2004年6月18日に、バンガロール市に、カビラという21歳のヒジュラが、何人からも犯された。警察に助けを求めようとしたところに、警察に逮捕、侮辱、虐待されて、何時間にもわたって、むりやり裸の姿にさせられた (IGLHRC)。

インドで違法であるにも拘らず、宗教的に結婚する同性のカップルが珍し



くなくなってきた。いくつかの例が次のようにある。

2001年5月に、チャットイスガール州での小さな町で、ヒンズー教の儀式で、レズビアンのカップルが結婚した。インドでは、このような儀式は初めてだと思われる。しかし法的には、正当な結婚にならない。市民たちは、反対したり驚いたりしていた者が多くて、彼女たちが持主に家から追い出された (Singh, 2001)。

2004年12月に、レズビアンの3組のカップルが、インドの小さな町で結婚した。彼女たちが、アクティヴィストでもなく同性愛に関する組織に所属もしていなくて、ただ一緒に生活したい一般の女性というのが、特徴的であった (365.gay.com, 2005/02/27)。

### LGBTQ の状況

現在、インドの主な都市では、同性愛に関連している組織やヘルプ・ライン、資金、社会的なスペース、ドロップ・イン・センターが見られる (AI, 2001; 53; Khan, 2001)。他方、バーやディスコ、クラブのような、セクシュアル・マイノリティの人々が使用している場所が、国から撤去されている (Bondyopadhyay, 2002)。

最近、インターネットで、便宜的な結婚を可能にするために、同性愛のコミュニティ向けの“デーティング・サービス”が始まった。

アジアの他の国々に比べると、同性愛者の人口には、エイズに感染している人の割合が非常に高い。「フンサファール」によると、20%までも占めている。男性と性行為を行う男性たち<sup>12)</sup>が多くいるので、予防的で教育的な活動がやりにくくなってくる (Humsafar Trust)。1992年の調査によると (Nathand Nayar, 1997)、最初の性行為の相手が男性だったと認める非婚の男性は12%、既婚の男性は8%いる。さらに、トラックの運転手たちの15%は、男性との性行為の経験があると認めている。

インドの農民の男性では、同性愛的な経験は一般的なようだ (例えば、独身



の場合は 17.3%、結婚した人の場合は 9.2%) (Meenan, 2005)。

LGBTQ に関するいくつかのインドの組織は、外国で創立されていた：例えば 1986 年にアメリカで「トリコネ」(Trikone)、1989 年にイギリスで「シャクティ」(Shakti)。

このような組織が、1980 年代から、情報とポルノの内容を混ぜて 10 以上のニュース・レターを出版している (Shah, 1993)。同じように、「ナズ財団」は、ロンドンに 1991 年に、「南アジアの諸コミュニティに、エイズについて、文化的に言語的にふさわしい情報やサービスを供給する」という目的で、創立された (Khan, 2001: 112)。1996 年 1 月に、様々な組織を合併しながら、インドに移動した。

「フンサファール」は、アショク・ラウ・カヴィ (Ashok Raw Kavi) 氏によって 1994 年に創立され、1991 年からの「ボンベードスト」(Bombay Dost) というインドの最初のゲイ雑誌に属して、インド初の同性愛の組織となる。マスコミのキャンペーンを通じて、彼らは、ゲイの生活様式をありうるテーマとした。「フンサファール」は、インドや世界の他のゲイの組織や人権に関するグループと広いネットワークを作った。1995 年 10 月に、ムンバイ市に、カウンセリングや情報センターを設立した。

国や警察は、ヒジュラの存在さえも認めたくない。公の書類で自分のことを“第三性”と書くと、身分証明書などが与えられない。従って、国立健康保険や社会福祉のサービス、社会住宅なども与えられず、しかも“女性”か“男性”であるべき公務員にはなれない。生活するために残っているのは、乞食、またあるいは売春婦しかないとと言っても言い過ぎではないかも知れない (Bondyopadhyay, 2002)。1999 年に、マドヤプラデシュ州では、シャブナム・マウシ (Shabnam Mausli) という人は、最初のヒジュラの議員として選出された。2003 年から、様々な政党から議員になろうとしているヒジュラ 108 人

がいて、新しい政党を創立の意志があるらしい (*Japan Times*, 2003/11/26)。

1983年の調査 (Nath and Nayar, 1997) によると、最初の性行為の相手が女性だったと答える女子学生は、38% もいる。にも拘らず、レズビアンたちが、暴力の対象になる場合が多くて、特に家族からカミング・アウトして、結婚したくないと言い出す時である (Bondyopadhyay, 2002)。レズビアンのために、1997年に「ナズ財団」のもとで「サンギニ・ヘルプ・ライン」(Sangini) が、1999年に「アーチャール・ヘルプ・ライン」(Aanchal) が、そして德里市で「サキ会」(Sakhi) が創立された (AI, 2001)。

レズビアンのコミュニティは、ゲイのコミュニティほど統一化されていなくて、運動はまだ弱くて、本当の意味での組織化はなされていない (Geeta Kumana<sup>13</sup>)。2002年7月の「東京ゲイ・レズビアン映画祭」に陳列された『Petals』(花びら) は、スレシュ・ナタラヤン監督によって2001年に作られた短編映画である。本当の事件に基づいており、家族や結婚から逃げていて互いに愛している二人の若い女性というストーリーを描写している。警察に追いかけられ、マスコミのキャンペーンの圧力のせいで、心中する。

1999年7月には、インドで初の同性愛者たちのいわゆる“ウォーク”が、コルカタで行われた。当時から、いくつかの公の会議が行われた。例えば、2001年にバンガロール市で「性少数派の権利のための連合」(Coalition for Sexual Minority Rights) が、200人以上の参加者のいた「沈黙を止めよう」というイベントを行った (AI)。

2003年インドでの最初の「セクシュアリティや性的多様性の映画祭」が行われた。何百人という参加者がいて、16の国々からの40本以上の映画を上映した (365gay.org)。

## 4.2. スリランカ

### LGBTQ のグループ

「旅中の友」(Companions on a Journey), コロンボ市, G, エイズに対しての方策, ドロップ・イン・センター:

coj@sri.lanka.net, <http://www.companions-lanka.org>

「イーQUAL・グラウンド」(Equal Ground), コロンボ市, LGBT:

<http://www.equal-ground.org>

「スリランカの友」(Friends of Lanka), コロンボ市, G, 2004 年から:

friendsoflanka@yahoo.com

「スリランカ・友情」(Friendship Sri Lanka), バッタラムツラ市, LB

「6699 クラブ」(6699 club), コロンボ市, LGBT, 特に娯楽の側面 (ディスコなど)

「スリランカ人のゲイの友」(Sri Lankan Gay Friends), LGBT, オンラインのサポート・グループ: <http://www.geocities.com/srilankangay/>

「女性のサポート・グループ」(Women's Support Group), コロンボ市, LB:

coj@sri.lanka.net

### 社会・文化の背景

仏教的な背景にも拘らず, スリランカは, 保守的で貞淑ぶっている社会であろう。

植民地時代以前, 全く問題にならないぐらい, 同性愛的な性行為は“自然”だった (Price, 1999)。

### 法律の状況

イギリスの植民地の支配者たちから 1883 年に導入された刑法の 365a 条

は、同性愛的な性行為を犯罪行為としている (Gay Law Net; IGLHRC; *Planet Out*, 2000c; Thompson, 2001)。その当時、レズビアンとの関係は、載っていなかったが、1995 年に加えられた (Sri Lankan Gay Friends; *Planet Out*, 2000a, b)。同性愛的な性行為は、365a 条によって、12 年間の懲役刑まで科すことができる (Sri Lanka Gay Friends; *Planet Out*, 2000a, b; AI, 2001; ILGA)。

### 法律の適用

それにも拘らず、1950 年からスリランカで 365a 条に基づいた告訴はなかった (Gay Law Net; Reuters, 23.05.2001)。この法の現在の主な利用は、警察から、男性同性愛者を脅迫することや、時にはセクハラすることである (Price, 1998)。

『ザ・アイランド』(*The Island*) 新聞が 1999 年 8 月に“レズビアンとのグループの中に有罪強姦者たちを解放するように”と警察が勧奨していた同性愛嫌悪の読者の手紙を掲載した。その後、「旅中の友」(Companions on a Journey) やその会長、元カトリックの神父シェルマン・ド・ローズ (Sherman de Rose) 氏は、記者議会のもとで告訴した。2000 年 6 月に、これは却下された。要するに、議会の 5 人の会員 (記者や弁護士) によると、“レズビアン主義は、サディズム的で猥褻な行為であって、違法的で不徳義でみだらなことであり、レズビアンたちが社会に危険を広げている”。さらに、彼らは“基礎的に男性と女性によって構成されるべき”家族を守るという必要性も訴えた (Gay News; IGLHRC; *Planet Out*, 2000c)。アムネスティ・インターナショナル会は、スリランカのマスコミが“簡単に、暴力になりそうな不寛容の雰囲気を作っている責任がある”と考えている (AI, 2001; 43)。

### LGBTQ の状況

Silva *et al.* (1997) による調査では、インタビューを受けたスリランカの男子学生たちの半分は、最初の性行為の経験が男性と一緒にあった。

「旅中の友」は、1995年にオランダの政府の資金のおかげで創立された。その当時記者会見を開いたとき、メンバーたちは脅迫され、攻撃された。その後、オフィスに石を投げられて、会長を含めて3人のメンバーは、攻撃された (Reuters, 23.05.2001)、現在、コロombo市のドロップ・イン・センターに7000人がコンタクトして、1800人のメンバーがおり、全国的に支部がある。センターには、図書室、閲覧室、カウンセリング、コンドームの配付、映画の上演などもある。人権に関する組織やアクティヴィストの広いネットワークのおかげで、「旅中の友」は、同性愛がもう犯罪行為にならないように圧力をかけて、エイズの予防にも一役かっている。さらに、スリランカでは同性愛が小児愛とよく結び付けられているから、「旅中の友」は、子供の権利にも力を入れている (ILGHRC)。近年は、厚生省の国立エイズ委員会と一緒に活動してきた (Reuters, 23.05.2001)。

「女性のサポート・グループ」(Women's Support Group)は、「旅中の友」からの自治体として、創立された。特にレズビアンやバイセクシュアル女性のために、サポートのコミュニティを作ろうとし、彼女たちの権利を促進しようとしている (IGLHRC)。

「6699クラブ」は、全国的に支部を持って、1999年12月に創立された娯楽的な活動を行う組織である (Sri Lankan Gay Friends)。

「イコール・グラウンド」(Equal Ground)は、2004年に創立し、スリランカの同性愛の全コミュニティのために活動している最初の組織として知られている。彼らのモットーは“全ての性指向やジェンダー・アイデンティティの人々のために平等のステータスを”ということである。

1999年6月に、「旅中の友」が主催した第二回「国立ゲイ会」(National Gay Conference)には、カミング・アウトしていた60人が参加した。その時から、毎年のイベントになった。同年12月に、コロomboで最初の「レズビアン会」(Lesbian Convention)が行われた (Sri Lankan Gay Friends)。

2003～04年から、「旅中の友」の会長シェルマン・ド・ローズ氏は、隣の

国々 (インド、パキスタン、バングラデシュなど) のメンバーを引き連れて、同性愛嫌悪に対しての、同性愛権利のためのキャンペーンを張り、「南アジア権利のための戦い」(South Asian Fight for Rights) として連合を作ろうとしている。

同性愛者たちが自由に会えるバーやクラブがない<sup>14)</sup> (Price, 1998)。最初の「ゲイ・ダンス・パーティ」は、2000年1月に「6699クラブ」や「旅中の友」が主催し、西海岸のホテルで行われた (Sri Lankan Gay Friends)。

2004年12月26日の津波は、特にゲイのコミュニティに害を及ぼした (36人死亡, 9人行方不明, 131人ホームレス)。要するに、性指向のせいで家族に退けられたゲイは、貧しい地方のあばら屋で生活している者が多くいる。さらに、ド・ローズ氏によれば、大部分は、無学で、無職で、売春などのような不安定な仕事をして生活している。一時的なキャンプでは、同性愛嫌悪の的になっている (Wockner, 10.01.2005)。

スリランカの数百人のゲイは、同性愛嫌悪の理由で、避難権を求めながら、カナダへ移民したがっている (Thompson, 2001)。

現在カナダで生活しているシラム・セルヴァヅライ氏 (Shyam Selvadurai) は、1994年に、スリランカにおける同性愛についての最初の小説『Funny Boy』(変な男) を出版して、これは「WH Smith/Books in Canada First Novel Award」(W. H. スミス書店、カナダの最初の小説) という賞を受賞し、アメリカで「Lambda Literary Award for Best Gay Men's Fiction」(ランブダ・リテラリからゲイ・フィクション) という賞を受賞した (Sri Lankan Gay Friends; *Sunday Times*, 2000)。

アソカ・ハンダガマ (Asoka Handagama) 監督の2001年の『Flying with one wing』(一つの羽で飛ぶ) という映画は、スリランカで男性として生きている女性の話で、彼の苦勞 (解雇、医者などからセクハラ)、をテーマにしている、

外国でも大変人気があった。この映画は、イタリアの2001年「トリノー市国際映画祭」でアノマ・ジャナダリ (Anoma Janadari) 氏という主演女優が特別賞を受賞し、同年「東京国際映画祭」でアジアのベスト映画という賞を受賞し、スペインの「サンセバスチャン市国際映画祭」で賞審査委員会の特別賞を受賞した (Sri Connection Network<sup>15)</sup>, 2002)。

### 4.3. ネパール

#### LGBTQのグループ

「ブルー・ダイヤモンドの会」(Blue Diamond Society), カトマンズ市, LGBT, エイズに対しての方策, 経済の状況を向上のための活動:

<http://www.bds.org.np>

「コミュニティ・プロモート」(Community Promote), LGBT

「ネパールのクィア会」(Nepal Queer Society), LGBT

#### 社会・文化の背景

ネパールの公用の宗教はヒンズー教であるにも拘らず、仏教は、信仰や日常生活に大変強い影響を及ぼしている。公衆の前で男性同士の感情を表すのは受け入れられるのに、異性愛的な感情を表すのは受容されていない。それにも拘らず、同性の行為は、一般的に受容されていなくて、それはLGBTに対して差別や暴力の原因になる (IGLHRC; Malla, 2001; Otton, 1996)。

「ブルー・ダイヤモンドの会」の会長スニル・パント (Sunil Pant) 氏によると、ネパール人、特に仏教の背景の人々は、性的な少数派に対して、むしろ比較的に寛容である (Haviland, 2005)。

ネパールの伝統の第三性の人物は、メティ (meti) と呼ばれている。

西ネパールのグルング族では、伝統的に女装して踊るマアルニス (maarunis) という男性がいる。彼らは、ネパールの王宮にも、エンターテナーと



しても吉兆としても、人気が高いそうである (Haviland, 2005)。

ネパールでは、一般的に結婚が社会的な義務として見られているので、結婚するゲイたちやメティたちが大部分である (Haviland, 2005)。

### 法律の状況

IGLHRC と Sodomy Laws (2002) によると、同性愛的行為は、男性にとっても女性にとっても犯罪と見なされ、終身禁錮の刑罰が当たる。IGLA によると、男性の場合だけで適用され、インドと同じように女性に関しては記載されていない。United Nations Human Rights System (1999) によると、同性愛は法律的に存在していない。

さらに、エイズに感染した人々は、差別の対象 (例えば、保険を受けられない、公の職業につけないなど) になり、政府はこのような問題と関係したくないようである (Malla, 2001)。

### 法律の適用

ネパールで、LGBT に対して、拷問、不法監禁、行方不明の事例が多く報告されている (United Nations Human Rights System, 1999; IGLHRC)。同性愛的行為のために、外国人が退去させられる場合もある (ILGA)。全国的に同性愛者に対する攻撃は、AI や IGLHRC、英国の大使館からの注意を受けた (Hegranes, 2005)。

次のような代表的な例が多く行われている。2004年4月28日に、「ブルー・ダイヤモンドの会」のメンバーであるアムリット・アディカリ (Amrit Adhikari) 氏は、パシュパティ寺院のそばで Condom を配付していた時に、攻撃された。暴力を振るわれ、啓蒙の資料や金が盗まれて、攻撃者から社会の倫理を破壊すると非難された。寺院の関係者も含めて、周りにいた人々は何もしなかった。次の朝、警察に訴えを出したが、無視された (ブルー・ダイヤモンドの会, 2005)。

2004年8月7日朝早く、メティであるスラジュ (Suraj) 氏は、友達と一緒にディスコから戻る途中、人込みの道で、のどと親指を切られ助けを求めていたジャヤラム (Jayaram) 氏 (もう一人のメティ) を見つけて、病院まで連れて行った。「ブルー・ダイヤモンドの会」が経済的な支援を含めて、ジャヤラムに関する、全ての責任を取ると聞いた時から、緊急であったにも拘らず、ようやく医者たちが手術を始めた。命は助かったが、ニア・ミスの場合だった。

1998年7月に、24歳と16歳の二人の女性は、カワルパラシ地方で、結婚した。両親に暴かれた後、逮捕されたが、ネパールでは同性婚に反対の法律が存在していないという理由で、すぐに解放された (Eastgarden)。

さらに、医者たちによる刑務所での研究が、同性愛は、広い範囲で性的な悪弊の存在であるという結果を引き出した (Peel *et al.*, 2000)。

### LGBTQ の状況

最近、完全に同性愛者向けのバーやクラブはないけれど、いわゆる「ゲイ・フレンドリー」のバーなどがカトマンズに現れた (Utopia)。

「ネパールのクィア会」は、1993年にカトマンズで創立された。しかしながら、外国の同性愛に関する組織と、全然結びついていない (Wockner, 1995; Eastgarden; ILGA)。

「ブルー・ダイヤモンドの会」は、2001年にスニル・パント氏によって創立された。主な目的は、エイズに対しての方策や、LGBTQ の経済的な状況を向上すること、性的な少数派に対して意識させながら、攻撃と戦うことなどである。ドロップ・イン・センターでは、事務室と共に、図書室やビデオ室もある (ブルー・ダイヤモンドの会; Haviland, 2005)。現在、全国の15カ所の間にネットワークを設けた。2004年10月に、LGBTQ に対しての人道的な活動のために「ユートピア賞」(Utopia Award) をもらった。2004年2月19日に、「ブルー・ダイヤモンドの会」LGBTQ のもとで、コミュニティの会議が開か

れて、そこで「性指向やジェンダー・アイデンティティ、人権についてのカトマンズ宣言」を発表した：「(……) 私たち、ネパールの LGBTQ の人々は、存在していて、国の一部である。(……) 私たちの声を聞いてもらえるようにお願いしている。(……) 全国的に人権の悪弊を受けて、私達の安全や生活、命を脅かしている。(……) したがって、私たちの実現や基礎的な権利を守るのは必要である (……)」(ブルー・ダイヤモンドの会)。

2004年8月9日に、「ブルー・ダイヤモンドの会」のメンバーの39人が、カトマンズの警察にはっきりしない法的理由で逮捕された後、AI、「人権ウォッチ」(Human Rights Watch) などから国際的な抗議のおかげで、24日に解放された (*Himalayan Times*, 2004; 365Gay.com; ブルー・ダイヤモンドの会)。

2002年、2003年、そして2004年8月には、ガイ・ジャトラ祭<sup>16)</sup>の一部として、「ブルー・ダイヤモンドの会」は第三回目に、「プライド祭り」を主催した (ブルー・ダイヤモンドの会, Utopia)。

2005年1月の中旬から、英国大使館の資金のおかげで、ネパールの最初の LGBTQ に関する週刊誌『ダイヤモンド・ウィークリー』(*Diamond Weekly*) が出版された (ブルー・ダイヤモンドの会)。

#### 4.4. バングラデシュ

##### LGBTQ のグループ

「バンドゥ社会福祉会」(Bandhu Social Welfare Society), ダカ市, GBT, エイズに対しての方策: bandhu@bdmail.net

##### 社会・文化の背景

バングラデシュは、主にイスラム教の社会であり、南アジアの最も保守的な国の一つと見なされている (Mahmud, 1999)。インドと同じように、いわゆる“第三性”としてヒジュラもいて、人口が約5000人と推定されている。

男性と性行為している男性 (MSM) では、アイデンティティよりも、ただの行動 (ジェンダーの役割) と考えた方がいい。基本的に、コティ (khoti) は、女性らしき行動をとっており、逆にパンティ (panthi) は、男性的な行動をとっている。ドプラタという人々は、両方の行動をする (Dowsett in Hossain, 2003; Haque, 2004; Azizul, 2002; ナズ財団)。

意外に、バングラデシュでは、同性愛的行為は広く行われていて、複雑な性交のパターンが存在している：公園での多くの男性の売春 (特に若い農民や労働者)、伝統的に男性いところや義理の兄弟間の性行為、トランスベスティズムの伝統。特に地方では、男性同士の性行為は、一般的でありながら、楽しむために行われていると見られている (Dowsett in Hossain, 2003; Chowdhury, nd; Mahmud, 1999; *Star Magazine*, 1996; Carr, 2003)。結婚後でも、男性同士の性行動は珍しくなく、性的なアイデンティティに影響を全く及ぼしていない (Ki Pukar, 1996)。

バングラデシュでも、家族は非常に大事な社会の構造的な単位であって、特に女性に対する結婚への社会的な圧力は非常に強い (Chowdhury, nd; Carr, 2003)。

### 法律の状況

イスラム教のシャリア法によって、しかもインドと同じように英国の植民地の影響からの刑法の 377 条により、同性愛的な行為が犯罪行為として認められ、最長 10 年間の懲役刑まで科されることもある (IGLHRC; *Star Magazine*, 1996)。

### 法律の適用

377 条の告訴による事例は、あまりない (Carr, 2003)。

1999 年 9 月に、警察はダカの同性愛者を広く攻撃して、“変態”という理由で 15 人の男性を逮捕した。発表された目的は、社会に対しての脅威だったと

ということだけである。罰金を取られた後、全員が解放された (Mahmud, 1999)。さらに、警察による強姦や電気療法、セクハラ、金の強奪の報告もある (Carr, 2003; ナズ財団)。

### LGBTQ の状況

LGBTQ 向けのクルージング・スポットはあるが、ゲイ・バーやクラブがない。

「バンドゥ社会福祉会」は、特に男性同士で性的行為を行っている者にエイズに対する意識を向上させるために、ナズ財団の専門的な助言のもとで 1986 年 10 月に創立された。

LGBTQ の物事のマスコミからの取り扱い方は、良くても無関心になる (Star Magazine, 1996)。

バングラデシュは、アジアの国々の中で、特にヒジュラのグループの中で、エイズ感染率の最も高い国の一つである。彼らは、様々なパートナーと一緒に、時にはコンドームなしで肛門性行為を行っているわけである (Azizul, 2002; Hossain, 2003; Haque, 2004)。

## 4.5. モンゴル

### LGBTQ のグループ

「色の男のグループ」 (Color Boys Group), ウランバートル市, LGBT, 娯楽系<sup>17)</sup>: colorboysgroup@yahoo.com

「モンゴルのレズビアンの情報とコミュニティ・センター」 (Mongolian Lesbian Information and Community Center - MILC), ウランバートル市, LB :  
<http://www.mongoldyke.org.mn>; [cherchez\\_la\\_femm@hotmail.com](mailto:cherchez_la_femm@hotmail.com)

「タビラン (運命)」 (Tavilan), ウランバートル市, LGBT :  
[idre9@hotmail.com](mailto:idre9@hotmail.com)

「ゲイのための若者健康センター」(Youth Health Center for Gay Men), バガトリ  
ウウ市, G, 健康を中心: zaluus\_eruulmend@yahoo.com

### 社会・文化の背景

モンゴルの社会は、特に性的な物事で、大変保守的である。同性愛は、一種のタブーで、一般人から見れば、とても悪いイメージがある。一般の本屋では、同性愛についての情報が全然ない (Ammon と Austin, 2000; モンゴルのレズビアンの情報とコミュニティ・センター)。

それにも拘らず、トランスジェンダーの人々が存在しているらしい。彼らは、「マニング」(maning) と呼ばれて、モンゴル語で「男でもなく女でもない」を意味する。男性同性愛者たちは、ロシア語からの「ゴモ」(gomo) と呼ばれている (Mongolia News Report 2000-04<sup>18</sup>)。

### 法律の状況

刑法には同性愛が載っていないけれど、113条のもとで、「性欲に対する不徳義な充足」が違法とされていて、LGBT を逮捕するために利用されている (Baird, 2001; ILGA; Gay Law Net)。

### LGBTQ の状況

モンゴルでは、はっきりした同性愛嫌悪の行動はあまりないのに、ゲイ・ライフやコミュニティはほとんど存在しない (Ammon と Austin, 2000; Smith, nd)。ゲイ・バーやクラブは見つけられないが、いわゆる「ゲイ・フレンドリー」は、ウランバートルで何件かある。クルシング・スポットが1カ所あって、「秘密の通り」と呼ばれてきたウランバートルの中心にある (Utopia, 2004)。

「運命」は、モンゴルで最初のLGBTQ に対しての人権会で、22人のメン

バーで1999年4月に創立された。そのきっかけは、警察からの攻撃や公民権を犯していた裁判の手続きの行い方である。現在、130人のメンバーがいる。ウランバートルで、小さなオフィスがあって、現在の活動は、スポーツやホット・ライン (2000年11月から)、サーフ・セックスについての授業を通じて同性愛者のための社会的な中心を作って、主な目的は、ゲイの権利のために活動することと、外国の同じようなグループとネットワークを作ることである (*UlaanBataar Post*, 1999; *Utopia*; 運命)。2000年の夏では、2番目の会議を開き、5人しか来なかった。2002年インターネット上、初めてモンゴルのゲイに対して「yahoo group」を開いた (Smith, nd; 運命)。

「ゲイのための若者健康センター」は、2003年に創立して、目的が、同性愛者たちの健康に関する意識を向上することである。

「モンゴルのレズビアンの情報とコミュニティ・センター」は、ただ一つのモンゴルのレズビアンで、2004年1月に創立した。活動は、ホット・ラインやインターネットのサイトを含めている。

#### 4.6. 中 国

##### LGBTQ のグループ

「中国虹」(China Rainbow), ロス・アンジェレス市, LGBT :

<http://www.chinarainbow.org>

「性的少数派を研究のための中国の会」(Chinese Society for the Study of Sexual Minorities - CSSSM), バージニア州, エイズ : <http://www.csssm.org>

「国際中国の“同志”の会」(International Chinese Comrades Organization), サン・フランシスコ市, G, エイズ : <http://www.comrades.org>

「ラベンダー・フェニックス」(Lavender Phoenix), LBT, エイズ : <http://www.stormpages.com/lpsister>

「レズウェイ」<sup>19)</sup> (Lesway), LBT : <http://www.joseeha.org>



「オリエンボー」(Orienbow), 北京市 : <http://members.xoom.com/orienbow>

### 社会・文化の背景

\* 歴史的には、秦時代の学者によると、すでに最初の時から、すなわち黄帝 (Huang Di - 西暦紀元前 2697-2597 年?) と呼ばれる中国の伝説的な帝王には、男性の恋人がいたとされていた (Wikipedia [07.05.2005])。

東周時代 (西暦紀元前 770-256 年) では、同性愛 (男性的・女性的も) は、多くの国で、貴族の間に、一般的な性生活の一部で、同性愛行為に正当化が必要ではなかった。前漢時代 (西暦紀元前 206 年-西暦紀元 8 年) では、バイセクシュアルであれ同性愛者であれ、何人かの皇帝は、150 年間ぐらいに、中国に君臨した。皇帝の大勢の寵臣たちは、公の歴史の資料に挙げられて、彼らについて議論されていた<sup>20)</sup>。漢時代以降、貴族や宮廷以外の世界でも、同性愛的行為が広がってきたということは、しばしば記録された。それと同時に、詩人から誉められたり悪評をたてられたりした男性の売春も盛んになってきた (Hinsch, 2000; van Gulik, 1961)。宋時代 (西暦紀元 960-1279 年) では、その傾向が進んでいた。明時代 (西暦紀元 1368-1644 年) では、同性愛は、文学<sup>21)</sup> や芸術を通じて、とてもよく表現された。明時代では、福建省で、年齢の差のある男性同士の一種の同性婚が存在していた。20 年間ほど続けられるこのような結婚は、たいいていの場合、生殖の目的で若い男性が女性と結婚する時に終わる。清時代 (1644-1912 年) では、男性同性愛の重要性が基本的に続いて、要するに舞台には売春・俳優が優位を占めて、男性の淫売屋が盛んだった。それにも拘らず、新儒教の影響は、結婚の中以外の性行為の全ての形に広がってきた。例えば、1690 年に、康熙帝 (Kang Xi Di) は、家族を強化するために、互いの同意する同性愛的性行為の反対の法律を公布した (Hinsch, 2000)。同性的性交や行動に関しては、専門の語彙は、特に詩の場合、大変豊かで豊かである (Chou, 2001)。

芸術では、「文化革命」の時に焼けなかったとしたら、同性愛を誉めてい

た様々な本や絵巻物などが多く残っている<sup>22)</sup>。

古代中国では、同性愛的な関係は、決して平等的ではなく、性的な支配は、社会的な支配を反映している (Chou, 2001)。

中国では同性愛者たちが 20 世紀まで迫害されていないと言っていいかも知れない (Faure, 1994)。しかし、中国は、数十年の間に、西洋の影響を受けて、同性愛に対して比較的寛容から明白な敵意へ変化してしまった。日本の状況と同じように、西洋の社会的・哲学的・倫理的な基準が、思考や行動の主な指導になってしまったので、西洋的な科学や医学から病気としての同性愛の捉え方も、無批判に受け入れてしまった。1949 年に、共産党から同性愛が資本家の衰微の徴の一つと判断された。ゲイとレズビアン・フレンドリーのバーは、閉められた。皮肉にも、中国は、だんだん自分の同性愛的な伝統を忘れてしまい、同性愛が西洋から来たという風に信じてきてしまった。同性愛者たちは、再教育収容所へ送られていた。いわゆる「文化革命」(1966-76 年) の間、彼らに対しての暴虐がまた強くなってきた：何千人ものゲイやレズビアンは、公衆の面前で恥をかかせられたり、虐待されたり、他の地方まで追放されたり、電気ショック療法を加えられたり、時々殺されたりした。女性に対する性欲の欠如が、インポテンツと見なされて、指導者たちは、中国には同性愛が存在していないとまで言い出した (Chou, 2001; Hirsch, 2000; Hogan and Hudson, 1998)。

\* 社会への宗教の影響は、西洋やアジアの他の国々に比べたら、それほど大きくない。仏教は、同性愛に対して決して悪い役割を演じたことがない。儒教の信仰は、明白に定義されたジェンダー・ロールに関連して、例えばそれによってトランスベスティズムは禁止されている。それにも拘らず、儒教において、同性愛は罪ではない。しかも、共産主義の公式の無神論は、宗教の社会的・倫理的な意味を大変減らした (「性的少数派を研究のための中国の会」, アップデート：2000 年 10 月)。

\* 家族や社会が結婚に与える圧力は、家族の存在や子孫を持つことの重要性のため、中国ではとても強く現れている。例えば、北京で Wan (2001) からのアンケートによると、同性愛者の 90% が異性愛者の生活（つまり結婚、子供、秘密）を送っている。中国のゲイたちの大部分にとって、解放よりも結婚の方が大事であるわけ (Europa Journal, 2002)。

\* LGBTQ を示すために一般的に使われている表現は、「同志」(tongzhi) や「女同志」(nütongzhi) で、「友」を意味する中国語の古い言葉でもある。同性の友達間の意外に親密な関係を描写するために、明時代の詩の中に使われていた (McLelland, 2000)。共産主義の“専門語”になって、1980 年代から特に香港や台湾でのゲイ・シーンに取り入れられた。西洋風の「ゲイ」と「レズビアン」という表現に抵抗するために使われているようである。時々、ゲイという言葉は、同性愛者自身から使われても、侮辱と見られている (Chou, 2001; McLelland, 2000; To, pers. comm. 2002)。

### 法律の状況

歴史的に、同性愛的な行動は、直接であれ間接であれ二度、法律的なになった。10 世紀の初めには、儒教の道德学者たちの影響のもとで、男子売春は、法律的に、竹の鞭で 100 たたきを、罰金刑を与えられた。当時の別の罰と比べると、寛容だと思われる。さらに、この法律が使われることはあまりなかった。次に、1690 年に、同意された同性愛的行為を違法とした法律が出現したが、この法もほとんど使われたことはない (Hinsch, 2000)。

現在では、同性愛は違法ではないけれど、同性愛者は、いわゆるフリーガン法という刑法 106 条のもとで、告訴されうる。つまり、1979 年に定められた「子供と肛門行為を行うこと、無理矢理に少年と肛門行為を行うこと、暴行すること、多数の者と肛門行為を行うこと」という法である (AI, 1996; AI, 2000a; Hogan and Hudson, 1998; ILGA; Wan, 2001)。従って、「(……) 同性愛者

に、様々な行政的で刑事上の罰が与えられた」(Wan, 2001; 52) が、この法律は 1997 年に廃された。

この法律は、曖昧で、事例によっても、男女によっても、その働き方が異なってくる。1980 年代まで、同性愛者たちは、告訴された場合、10 年間の禁錮刑まで科され、もしくは (例えば、教員と学生間の関係の場合) 終身禁錮刑を科されえた。1980 年代の半ばから、特に 1997 年の改良のおかげで、状況がよくなっている (Lusby, nd)。

2001 年 4 月に、中国の精神医学会は、「精神病」から同性愛を消して、「アイデンティティ障害」というカテゴリーの中に入れた (AI, 2001; Gallagher, 2001; Gay Law Net)。

成都市、四川省の省都では、中国で初めて、HIV・ポジティブな人々に対して結婚禁止や、売春や麻薬中毒者という“危険グループ”に対して義務的なテストなどのような政策が法律的に定められた。しかも、一年以上外国に住んだ人々も義務的にテストを受けないといけない。それと同じように、長く中国に住もうと考える外国人も、テストを受けなければならない (Hogan and Hudson, 1998)。HIV・ポジティブな人々には、教育園の教員や外科医などのような様々な職業が禁止されている。このような政策は、地方のマスコミから非常に批判されて、その結果、HIV・ポジティブな人々が公衆浴場やプールを再び使うことができた (AI, 2001)。

2003 年に、結婚法の修正の再評価の際、同性婚についての論議が行われた。当然ながら批判されたが、同性愛の権利が議論されるのは、中国で初めてだった。

## 法律の適用

一般的に、中国の裁判では、“まず判決その後訴訟”という政策を導入しているそうであって、無罪の推定は認められていなくて、不法監禁は比較的によく行われて、訴訟は国際的な基準に従っていない。1994年から拷問が違法とされたのに、現在では一般に行われている (AI, 1996; United Nations Human Rights System, 1999; Human Rights Watch World Report, 2000)<sup>23</sup>)。

1999年9月30日に、作家ファン・ガン氏が同性愛者をアウトしたから罰金刑を受けたという判決の際、北京の裁判所は、同性愛が“異常な性行為で公衆が承諾すべきでない行為”と判断した。中国の裁判官が、同性愛の本質について立場を決定したのは、初めてだった (Nichols, 1999; Wockner, 1999d)。

何人かのアクティヴィストや研究者たちは、一般当局者や警察からの攻撃を受けたし、現在でも受けている。例は次のようにある。

\* 1985年に、南通市の鉄道医学研究所のダ・ダン (Da Dan) 氏が、同性愛について研究を行っていたから、警察に呼ばれた後、自殺してしまった。1986年に、上海市の東中国大学で同性愛についての研究を行っていたシャオ・ミン (Zhao Min) 氏は、裸の男性が見られる研究資料として使っていたビデオを持っていたから、6回も警察に呼ばれた (Wan, 2001)。

\* 1990年に、リ・ジャンカン (Li Jianquan) 氏は、警察に連行されたので、解雇されたそうである。1994年6月にニューヨークで「国際レズビアンとゲイ学会」で発表した後、アメリカに政治亡命者として避難権を頼んだ (Wan, 2001)。

\* 2000年8月25日から9月20日まで、ゲイ・アクティヴィストであるワン・ヤンハイ (Wan Yanhai) 氏は、国家機密の漏洩という理由で、警察に留置された。有罪を認めた後、解放された (AI; IGLHRC)。

\* 2002年11月に、大辻市での同性愛の会議は、破壊的な人が含まれているという理由で、地元の警察により禁止された。

1993年5月14日に、北京で最初の“同性愛サロン”は、同性愛について間違った捉え方が広がっていたため、警察に閉鎖された (ILGA)。

北京で、1994年8月から12月まで、ゲイたちが集まる場所で、警察による大量の一斉検挙が行われた (Wan, 2001)。2000年7月と9月の間の、売春・麻薬・悪徳に反対するキャンペーンの一部として、7月3日に、警察は、广州市のゲイ・スパで臨検して、37人を訴追した。現在まででゲイに対する最も大きい訴訟である。従って、同性愛者に大変人気があったこのスパ・リゾートは、5カ月間しか開いてなかったのに、閉じざるを得なかった。起訴の理由は、同性愛ではなく、売春であった (Planet Out, 2000b)。一般的に言えば、警察による臨検は、目的が政治的よりも経済的である (『性的少数派を研究のための中国の会』, アップデート: 2000年10月)。

1997年5月に、政府からパスポートを取り上げられたので、『東宮殿, 西宮殿』というクィア映画を作った張元 (Zhang Yuan) 監督がカンヌ映画祭に参加するのは拒否された (ILGA)。

2005年4月11日から、中国で最も人気のあるインターネットのゲイ・サイトが、政府により接続を阻止された。マネージャーによると、このサイト<sup>24)</sup>には、政治的性的な内容はなかった。ただ、ゲイ・コミュニティのために、様々な情報を挙げただけである (South China Morning Post, 18.05.2005)。

## LGBTQ の状況

「男の世界」(Men's World) という男性同性愛者のための“ディスカッション・グループ”は、北京で1992年11月に創立された後、様々な市で同じようなグループが出てきた。1993年5月に、マスコミから取り上げられ過ぎていることや公園でコンドームを配付することから、政府に禁止された。

1994年には、「エリザベス・テラーのエイズ財団」の補助金のおかげで、再び活動できた (Wan, 2001)。インドの場合と同じように、中国のLGBTQに対して活動しようと考えている組織は、外国から、特にアメリカから、働きかけているものが多い。次に挙げるのはその中のいくつかの例である。「中国虹」は、1996年にアメリカで創立された。「性的少数派を研究のための中国の会」は、1997年にアメリカで、“中国の文化における同性愛者の確立を促進したがっていた”学者のグループによって創立された。全員ボランティアである彼らの焦点は、性的少数派に対する差別と戦うために、特にインターネットを通じて行う情報の普及である（「性的少数派を研究のための中国の会」、アップデート：2000年10月）。政治的なグループである「国際中国の“同志”の会」は、1997年にアメリカで、中国の同性愛者に情報を提供するために、創立された。

「同志学会」に参加するために、1996年12月に中国の様々な所から来た200人の同性愛者たちが、香港に集まった。彼らの結論は、LGBTQの解放運動の英語系的なモデルを真似することが必要であるということである。7点のマニフェストを出版した<sup>25)</sup>：同性愛の存在；それに対する差別；同性愛に対する中国の伝統的な寛容；中国の伝統の中に嫌悪がない；同志間の情報などの交換；中国の社会に西洋の“対決的な政策<sup>26)</sup>”を強くないこと；性指向に関係なく他人への尊敬。それにも拘らず、中国のゲイたちには、ただの自由で同性愛嫌悪のない西洋の世界を理想化する傾向が見られる。このようなイメージが外国の雑誌やゲイ・パレードから来ているのであろう (Chou, 2001)。

同性愛者たちが会えるゲイ・バーなどのような場所は現在でも少ないが、1990年代からは、LGBTQの状況は、良くなってきた。その当時から、同性愛についての論文を出版することや、ゼミや学会を主催すること、外国から



の出版物をもらうことは、比較的になんて簡単になってきた。精神医学者<sup>27)</sup>も、同性愛について、より肯定的に書き始めた。1980-90年代には、マスコミのおかげで、LGBTQの存在は、一般的な社会によく知られてきた。インターネットも、情報や出会いのサイトを通じて、ゲイ・コミュニティを作ることに、大変大事な役割を演じた。現在の中国では、ゲイに関するウェブ・サイトが300を超えている (Cruz, 2002; South China Morning Post, 2005)。残念ながら、警察からの臨検や攻撃をとめなかった (Wan, 2001)。

1994年に、ゲイ・アクティヴィストのガリ・ウ (Gary Wu) は、台湾のテレビ会社の支援で、全国の15市で同性愛の生活様式についてアンケートを取りに行った。このドキュメンタリー『Comrades』(同志)は、香港のテレビから放送されたし、1996年にはサンフランシスコの「ゲイ・レズビアン映画祭」で上映された (Chao, 1997)。

2001年の終わりから、中国のマスコミには、最もセンセーショナルなレポや写真を出すための競争のように、同性愛や同性愛者というテーマが大変流行になってきた。最も驚くべきものは、2002年2月に出版された国立の社会科学研究所からの『*Modern Civilization Pictorial*』(現代文明映像)である：「私たちの中に同性愛者が存在している！」(Leow, 2002)。『*Menbox*』<sup>28)</sup>という男性向けのファッション雑誌は、多くの下着モデルの写真が載っているから、同性愛者たちから大変人気があって、実際にはゲイの世界でゲイ雑誌として認められている。

ゲイたちは、カミング・アウトすることもアウトされることも恐くてあまり結合していない。さらに、中国人は、文化革命などを思い出させられるから、“運動”を警戒しているということもある (「性的少数派を研究のための中国の会」, Lusby, nd)。

中国では、家族的な絆や結婚の伝統的な重要性のせいか、都市のゲイと地方のゲイとの間に、著しい差異が存在している (Lusby, nd)。比較的、より

自由な生活ができそうな都市（例えば深圳、上海など）へ移動する LGBTQ が多くいる (*New York Times*, 2002)。家族を故郷に残して、深圳市で働くビジネスマンは多くいる。このような都市でも、暗黙のルールは、結婚して職場で異性愛を演じて、二重の生活様式を送ることである。しかし、都市以外の所では、二重生活はできない。従って、地方に住んでいる同性愛者たちのために、インターネットは大変重要な存在である。世間のために“形”を守って、家族との生活を送るのは、自己表現（性指向に対しての意識も含めて）よりも大事である。

最近のデータは、中国でのエイズ感染がとても深刻であることを示している。2001年に、中国の政府は、エイズの感染源の68%が麻薬に関してであり、10%が異性愛の性行為からであり、10%が輸血からであり、残りが不明（同性愛的性行為を含めて?）であると推定した。比較的に、同性愛者の人口の割に、エイズに感染した人々は多くないけれど、コンドームなしの性行為が多いので、専門家からは、これから感染率が上がるであろうと判断されている (avert<sup>29</sup>, 2004)。2004年に、同性愛のコミュニティのうちに、エイズ感染をコントロールするために、全国的に、ヘルス・センターの40カ所が創立された。北京や上海などで、エイズについてのホット・ラインが始まった (*China Daily*, 10.12.2004)。2003年から、上海大学で、香港の有名なゲイ・アクティヴィストのジュン・ト (Chung To) による「同性愛健康, 社会, そして科学」という授業が始まった (*Shanghai Daily*, 30.11.2004)。

レズビアンは、ゲイよりも、隠されて、集中であり、モノガマスである。2001年のリ・ユ (Li Yu) 監督の『Fish and Elephant』(魚と象)、中国の最初のレズビアンの映画は、バーリン映画祭で賞を受賞して、世界の70の映画祭で上映されたのに、中国では、最初の「北京ゲイ・レズビアン映画祭」(2001年12月14日)で一回しか上映されていない (Ansfield, 2002)。その次の第二回

目の「ゲイ・レズビアン映画祭」が2005年4月に北京大学で行われるはずだったが、大学が以前許可を出していたのに、急に、大学当局者は、映画祭を行うことを拒否してしまった。結局、郊外の画廊で行われた。

#### 4.7. 香 港

“中国”と香港を、別に取り扱っている理由は、政治的ではなく、ただ歴史的原因で、香港は、比較的長い間英国の植民地だったということにある。そのイギリスからの影響は、社会的にも、文化的にも、言うまでもなくLGBTQの物事にも、現在でも著しく感じられている。

##### LGBTQのグループ

香港のLGBTQに関する最も重要なグループは、「ゲイ・レズビアン香港」(Gay and lesbian Hong Kong) だと思われる。インターネットのサイトには、情報や様々な現象へのリンクが大変豊かである：<http://sqzm14.ust.hk/hkgay>  
「チ・ヘン財団」(Chi Heng Foundation), エイズ, LGBT :

[http://www.Geocities.com/chi\\_heng\\_fdn/Chi\\_Heng\\_1.html](http://www.Geocities.com/chi_heng_fdn/Chi_Heng_1.html)

「自由な男性」(Freemen), カウンセリング, 娯楽的社会的な活動, G :

[http://freemen\\_1.tripod.com](http://freemen_1.tripod.com)

「香港の修復された少数派のキリスト教的共同体」(Hong Kong Blessed Minority Christian Fellowship), キリスト教, LGB :

<http://www.bmcf.org.hk>

「視野」(Horizons), カウンセリング, ホット・ライン, LGB :

<http://www.horizons.org.hk>

「イスヴァラ」(Isvara), 仏教, LGBT : PO Box 74342 Kowloon Central Post Office

「クィアー・シスターズ」(Queer Sisters), L : <http://www.qs.org.hk>

「虹共同体」(Rainbow Fellowship), キリスト教, LGB :

<http://welcome.to/rainbowfellowship>

「サツァンガ」(Satsanga) : <http://www.satsanga.org>

「10% クラブ」(Ten Percent Club) : [hkten@hotmail.com](mailto:hkten@hotmail.com)

<http://welcome.to/rainbowfellowship>

「同志文化会」(Tongzhi Culture Society (TCS)), 香港大学の中 :

<http://www.geocities.com/WestHollywood/Cafe/3265>

### 社会・文化の背景

“中国”と同じように、一般の人々は、同性愛のことを理解できないので、同性愛的性行為について否定的なイメージを持っている。その理由は、宗教的な差別ではなく、中国の社会における生殖や家族の重要性にある。

### 法律の状況

イギリスの植民地として、香港は、同性愛が違法という法も含めて、多くのイギリスの法律を取り入れた。156年間の英国的な支配の後、1997年に香港が中国に戻った時、政府は、差別の問題を、法律を通じてというよりも、教育や啓蒙を通じて取り扱うつもりであった。性指向に基づいた差別に対する法律には、市民からの抵抗が強すぎるからである (To, pers. comm. 2002)。

肛門性行為の法律は、1861年にイギリスの政府から香港に取り入れられた。イギリスでは1967年に、同意している男性間<sup>30)</sup>の肛門性行為や無作法が違法ではなくなるとした「性的罪法令」(Sexual Offense Act) という法律が議決されたのに、香港では、このような法律がなかった (To, pers. comm. 2002)。1991年まで、「人間に対する罪法」の49条は、最長に、肛門性行為が終身禁錮とされた (ILGA)。

1991年7月に、「刑事修正令」(Criminal Amendment Bill) のもとで、アジアで初めて香港において、同意している成人間での同性的性行為は、違法では

なくなった (Asiaweek, 1998; Hogan and Hudson, 1998; To, pers. comm. 2002)。

2001年に、国連は、香港が性指向に対する差別を違法としないことに対して抗議した<sup>31)</sup>。アクティヴィストのグループは、政府が差別反対の法律を議決するように活動をしている。

### 法律の適用

1980年に、ゲイ・バーは、警察からよく臨検されていた (McLelland, 2000)。

「平等可能性会」(Equal Opportunities Commission)が設置された後、1998年には告訴が4件あって、1999年には3件、2000年には14件があった (Chan, 2001)。2002年7月に、5人のゲイ・アクティヴィストは、「平等可能性会」に、同性愛者に対する差別をめぐって、告訴を出した (Hacker, 2002)。

### LGBTQの状況

現在、香港には、同性愛の組織は20ぐらいあり、何十件ものゲイ・バー、ディスコ、クラブ、4件の本屋、ゲイ・スポーツ・クラブなど、様々な同性愛に関する場所が、豊かになってきた。同性愛のラジオ局<sup>32)</sup>もある。香港以外の中国では考えにくい (Gagliardi, 2000; To, pers. comm. 2002)。

サムシャシャ氏によって1980年に創立された「Pink Triangle」は、香港初のゲイ・アンダーグラウンドのニュース・レターである。彼は、1981年に『同性愛について25の質問』(Twenty-Five Questions about Homosexuality)という中国初の同性愛解放的な本を書いて、さらに1984年に中国における同性愛の歴史『The History of Homosexuality in China』を書いたが、これは現在までもこの包括のテーマを扱って最も徹底的なものである。サムシャシャ氏は、アメリカへ留学をした時、アメリカの同性愛解放運動から強い影響を受けて、1980年に帰国した時、香港初のゲイ・アクティヴィストになった (McLelland, 2000)。

1991年に同性愛的同意が違法ではなくなった時から、香港の「同志運動」が盛んになり、一般の人々からの同性愛(者)の捉え方は、比較的によく言ったと言える。同性愛に関する場所も一般の若者にとってトレンドイナ所になった。ゲイからの広告も一般の英語系の雑誌の中に増えてきた(Choong, 1998; Ammon, 2001a)。それにも拘らず、現在でもゲイ・パッシングが行われている(To, pers. comm. 2002)。時々、ゲイたちとカトリックの当局者との間に、緊張が生じることもある(*China Daily*, 18.08.2003)。

「チ・ヘン財団」は、差別がなくなるように、そしてエイズの予防を促進するために1998年にシュン・ト(Chung To)により創立された。1996年4月に、「クィアー・シスターズ」は、レズビアンのためのホット・ラインを始めた。「サツァンガ」は、性指向についての意識を促進するために、学校でのワークショップを組織している(Chan, 2001)。1993年に、香港初のゲイ雑誌は、香港滞在のイギリス人から出版されて、中国語や英語で同性愛の生活についてのニュースや情報を提供した(Ammon, 2001a)。

1996年の「同志学会」は、その第二回目が1998年2月に(Sanders, 2002; ILGA)、第五回目が2004年に行われた。香港初のゲイ・パレードは、1999年6月18日に行われて、20以上のゲイ・レズビアン・グループが参加した(Wockner, 1999c; Ammon, 2001a)。2005年5月17日に、最初の「同性愛嫌悪に反対のパレード」が行われた。

政治的な活動では、2000年に、同志の「タースク・フォース」によって選挙に同性愛者が立候補するよう勧める活動が始まった。選挙のためのガイド・ブックを出版して、LGBTQの権利などについて各々の政治家の立場を明白にした。性少数派に対する差別を検討するための委員会が創立された。法律的に、同性愛者たちの期待として次の二点が挙げられると判断した：反差別法や同性愛パートナーシップ、が必要である。「クィアー・シスターズ」の研究によると、1995年から1996年まで、女性・男性同性愛者の60%が、

性指向のせいでは差別を受けたことがある。

「香港クィア映画祭」は、1998年から毎年行われている。2004年の場合、参加者が6500人いて、映画が38本あった。

香港では、エイズ感染率が残念ながら上がっている。主な理由は、コンドームなしの性行為や麻薬中毒患者の行動にある (AFP, 25.05.2004)。2005年4月から、香港やマカオなどで無料の検査が行われている (China Daily, 18.05.2005)。

〔注〕

- 1) 例えば、11世紀のサンスクリット物語『カタサリトサガラ』(Kathasaritsagara)の中で、「スワヤンヴァラ サキ」(swayamvara sakhī)は、「自分が選んだ女性の友」という意味を持つ。
- 2) 「フンサファール」のサーベイによると、ヒジュラの85%は、去勢されていない。現在のインドでは、去勢は違法であるにも拘らず、秘密で行われている (Winter, 2002)。
- 3) 2000年2月26日にムンバイで行われた第一回の「サマバヴァナ会」のワークショップ。
- 4) 2000年2月26日にムンバイで行われた第一回の「サマバヴァナ会」のワークショップ。
- 5) それにも拘らず、現在まで、レズビアンに対して、実際の告訴はない (Bhaskaran, 2002)。
- 6) 実際には、肛門的性行為を行う同性愛者たちも訴えられる可能性もある (Sherry, 1998)。
- 7) 2000年2月26日にムンバイで行われた第一回の「サマバヴァナ会」のワークショップ。
- 8) はっきりとした危険がない限り、禁止されていることである。
- 9) 「ASA 20/040/2001 - News service Nr. 1310」として分類された資料。
- 10) 例えば：2002年2月にカルナタカ州のニッパリ市では「ヴァンプ会」のオフィスが市民たちから石を投げ付けられた時、警察が彼らを妨げるための行為を何もしなかったし、「売春婦は普通の市民ではない」との理由で告訴を受理しなかった。



2002年3月に、バンガロールのサンガマ会の会員たちは、ヒジュラたちが会議に参加するのを妨げようとしていた警察に攻撃された。チェンナイ市で、サハドラン会も地方の警察に攻撃された (Human Rights Watch, 2002)。

- 11) 委員会は、「市民の自由の民族の組合」(Peoples Union for Civil Liberties)、「違う法律のフォーラム」(Alternative Law Forum)、サンガマ、「ヴィヴィダ」(Vividha) というグループを含んでいた。
- 12) 彼らは同性愛者として自認していなくてしばしばそれを認めない。
- 13) 2000年2月26日にムンバイで行われた第一回の「サマバヴァナ会」のワークショップ。
- 14) 国際ゲイガイド『スパルタカス』(Spartacus) (2002-2003) によると、いわゆる“ゲイ・フレンドリー”のバーや喫茶店が何軒かあるけれど、全ては、ゲイではないとして載っている。
- 15) [http://www.sricconnection.net/files/art\\_culture\\_cinema\\_flyingwithonewing.php](http://www.sricconnection.net/files/art_culture_cinema_flyingwithonewing.php).
- 16) ネパールの最も古いヒンズーの祭りの一つ、ガイ・ジャトラ (Gai Jatra) は8月の満月の夜に行われて、基本的には、前の年に亡くなった人々を祭るという意味がある。しかしながら段々、一種の政治的な表現を取るようになって、その日だけ政治的社会的な風刺を許された。その理由で、LGBTQのプライド祭りの日として選ばれた。
- 17) 月一回、ゲイ・レズビアンパーティを組織している。
- 18) リチャード・スミス (Richard Smith) 氏からの情報 (2000年12月30日)。彼は、国連の平和部隊としてモンゴルで働いた。  
<http://www.travelandtranscendence.com/Mongolia-news.html>
- 19) ハーバード大学の法学部 (インターネットと社会のセンター) の二人の学生によると、2002年から、このサイトは、中国の政府によってブロックされたい。  
[http://cyber.law.harvard.edu/filtering/china/China\\_L.html](http://cyber.law.harvard.edu/filtering/china/China_L.html)
- 20) 漢時代では、最も有名なのは、哀帝 (Ai Di - 君臨：西暦紀元前6年-西暦紀元1年) の恋人、董賢 (Dong Xian) である。息子がいなかった皇帝は、相続によって董賢に帝位を譲った。しかし、宮廷の最も政治力のある人々からあまり支援されていなかった。従って、自殺してしまった。董賢の人生での出来事は、中国での同性愛のためのメタファーになった。ある日、哀帝は、董賢と一緒に昼寝していた時、義務に呼ばれていた。寝ていた恋人を起こさないように、刀で自分の着物の袖を切ってしまった。それを聞くと、廷臣たちも真似して自分の袖を切って、新しい流行が始まった。当時から、切られた袖は、中国での同性愛のシンボルになった。
- 21) 例えば、17世紀の作者の分からない『断袖篇』は、50の有名な事例を集めて、中国 (もしかして世界) の最初の同性愛の歴史と認められている (van Gulick,

- 1961)。
- 22) <http://www.androphile.org./preview/Museum/China/NEWindex.html>
  - 23) 三つの組織とも、LGBTQ の事例を出していない。
  - 24) <http://www.gaychinese.net>
  - 25) <http://sqzm14.ust.hk/hkgay/news/manifesto.html>
  - 26) そういう風に書くと、彼らは、北京やソウル、ジャカルタ、東京での対決的なア  
クティヴィズムの長い歴史などを忘れていてのではないか。
  - 27) 例えば、シュー・ワシヤン (Chou Wah-Shan) 氏の本『*Tongzhi: Politics of Same-Sex  
Eroticism in Chinese Societies*』(同志：中国の社会における同性愛的エロチシズムの  
政策) は、2000 年にアメリカで出版された。
  - 28) <http://www.mdjh.com.cn>
  - 29) 「アベルト」は、世界的にエイズ感染と戦っているグループである。  
<http://www.avert.org/aidschina.htm>
  - 30) 女性については何も記載されていなかった。同意の女性間の性行為は決して違法  
にならなかったことがない (ILGA)。
  - 31) 国連の経済・社会理事会：「経済・社会理事会による結論の評言」(Concluding  
observations of the Committee on Economic, Social and Cultural Rights (Hong  
Kong)), 2001 年 5 月 21 日, 資料：E/C.12/1/Add.58.
  - 32) <http://www.gaystation.com.hk>